



下曽我小学校
学校だより

梅の香

令和8年1月13日
藤本 明美

No. 9

ふるさと下曽我を愛する子

夢に向かって挑戦する子

思いやる心を大切にする子

仲間とともに進んで行動する子

＊記事の色はめざす子どもの姿に合わせています。

◆大切なのは「目標を決めたそのあと」◆

「一年の計は元旦にあり」ということわざがありますが、何事もはじめが肝心です。今年最初の朝会は、学校が目指す子どもの姿の一つ、「夢に向かって挑戦する子」について話をしました。

大谷選手(ドジャース)が高校生の時に書いた目標達成シートを知っていますか?大谷選手は「8つの球団からドラフト1位で指名される」ために、8つの目標(運・人間性・体力づくり・メンタル・変化球・スピード・キレ・コントロール)をたてました。そして、それぞれの目標を達成するための具体的な方法を考え、取り組みました。例えば「運を高める」は、ごみを拾う、挨拶をする、道具を大切に使う、審判さんへの態度をよくするといった具合です。

大切なのは、目標をたてたそのあとです。目標を実現するための方法を一つでも二つでもよいので、具体的に考えて、行動していきましょう。(朝会講話より)

午年は、昔から「行動する年」
「大きく飛躍する年」などと
言われています。子どもたちが
積極的に行動し、大きく成長
できるように、今年も全教職員で支援していきます。



◆だれもが自分らしく生きるために…◆

小田原市教育委員会主催「著名なアスリート派遣事業」



12月11日(木)、車いすバスケットボール女子チーム「ウイング」の鈴木選手と志田選手をお招きし、5・6年生が車いすバスケットの授業を行いました。

ほとんどの子どもたちが初体験。ドリブルをしながら車いすをこぐプロの技に感嘆の声があがりました。

授業では、普通の車いすと競技用車いすの違いやゲームのルールを教えていただいた後、前進、バック、ターン、ストップの練習や、ミニゲームを行いました。ミニゲームでは、思ったように動かない車いすに悪戦苦闘していましたが、参加している子も応援している子も大いに盛り上がりました。

お二人からは、車いすバスケットの楽しさと同時に、子どもたちが今後の生き方を考えるヒントもいただきました。

車いすバスケットは、障がいに合わせて持ち点があり、コート上の5人の選手の持ち点の合計が常に14点以内である必要があるそうです。このルールにより、障がいの重い選手も健常者もコートの中でともにスポーツを楽しむことができます。「違うからできない」と決めてしまうのではなく、「知恵を出し合い、工夫することが大切である」というメッセージが伝わってきました。

また、転倒して自力で起き上がれないときは、敵も味方も関係なく助け合って起き上がる話や、「負けたくないからハードな練習を続けている。基礎が大事。」という熱い思いも伺いました。助け合いの精神と目標をもって地道に努力する大切さを教えていただきました。

凛とした格好良い鈴木選手と志田選手の姿と言葉から、スポーツの素晴らしさと生き方を学ぶ有意義な時間となりました。

【子どもたちの感想から】

- 事故にあって大けがをした後もポジティブでいて、すごいなと思いました。私もポジティブでいきたいです。
- 車いすバスケットはできない人がいなくて、全員で楽しめるスポーツだと思いました。
- 高い目標に向かって努力を続ける姿がかっこよかったです。
- 実際にプレーをして、楽しさを知ることができました。日本一になるのを応援しています。

★1月は車いすバスケットの皇后杯があります。
ウイングの皆さん、応援しています。

◆入学、待っているよ◆

12月9日(火)、5年生が下曽我保育園と城前寺保育園の年長組と、交流会を行いました。

総合的な学習の時間の中で、「小学校のことを知って、入学を楽しみにしてほしい。」「入学してくる1年生が憧れる上級生になりたい。」という目標を立て、学習を進めてきました。子どもたちは、交流会の内容や台本を自分たちで考え、練習を繰り返す中で見直しと修正を行いながら本番を迎えました。

この日は、学校生活の様子を劇で表現したり、学校のマスコットキャラクターや下曽我ソングを紹介したりした後、みんなでゲームや鬼ごっこをして遊びました。そこには、ジェスチャーを入れながら大きな声で話したり、クイズやじゃんけんを入れたりして、懸命に場を盛り上げる5年生の姿がありました。

イエローハット創業者は「人生には三つの幸せがある」と言っています。一つ目は「してもらう幸せ」、二つ目は「自分でできる幸せ」、三つ目は「人にしてあげる幸せ」です。一つ目と二つ目の幸せは、自分が直接感じる幸せですが、三つ目の幸せは相手が喜び笑顔になる様子を見て感じる幸せです。私たちは成長とともに幸せの感じ方も変わってきます。喜ぶ園児さんを見て「してあげる幸せ」を感じる5年生の姿に、高学年としての成長を感じました。



最後に、手作りのころめけん玉をプレゼントすると、お返しに園児さんから歌のプレゼントをいただきました。両園のご協力に感謝申し上げます。

◆ミニ落語鑑賞会(5・6年生)◆

アマチュア落語家の気楽亭小生さんをお招きし、ミニ落語鑑賞会を行いました。落語は、古典芸能の一つとして6年生の国語の教科書で取り上げられています。

落語の仕草を簡単に教えていただいた後、小噺「初天神」を聴きました。小生さんの語りと身振り手振りに何度も笑いが起こり、古典芸能を楽しむことができました。



◆生命(いのち)の安全教育◆

新聞やTV等で、子どもへの性暴力についての報道が続いています。このことを重く受け止め、本校でも全職員で研修等を行い、子どもたちの安全と安心を最優先に考え、教育活動に取り組んでいます。

文部科学省では、子どもたちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう「生命(いのち)の安全教育」を推進しています。

生命(いのち)の安全教育とは?

生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切にする考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を発達段階に応じて身に付けることを目指すものです。(文部科学省)

12月22日(月)、1・2年生を対象にして、養護教諭が生命(いのち)の安全教育を行いました。自分だけの大切な部分(プライベートゾーン)と4つの約束を確認し、自分や友達が嫌がることをされたときの対処法を考えました。

【4つの約束】

- ① 大事なところを人に見せない
- ② 大事なところを人に触らせない
- ③ 他の人の大事なところを見ない
- ④ 他の人の大事なところを触らない

【対処法】

- ① 「いやだ」と言う ② 逃げる ③ 大人に話す

【子どもたちの感想から】

- 口もプライベートゾーンということ初めて知った。
- 髪の毛にごみがついているときも「触っていい?」と言ってから取る。急に触らない。
- 体育で着替えるとき、他の人を見ないようにしたい。

お子さんに不安なことや配慮を必要とすること、気になることなどがありましたら、担任や養護教諭にご相談ください。



📄 行事予定はこちらからご確認ください。

https://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/shimosoga_s



📄 学校HPもご覧ください。
学校だよりをカラーでご覧いただけます。